

研究タイトル:

# 大正末期～昭和初期の横光利一作品について



氏名:	羽原 卓也 / HABARA Takuya	E-mail:	habara@yonago-k.ac.jp
職名:	助教	学位:	修士(文学)
所属学会・協会:	日本近代文学会・横光利一文学会		
キーワード:	横光利一・日本近代文学		
技術相談 提供可能技術:	横光利一に関すること(とくに大正末期～昭和初期) 日本近代文学について(                    "                    ) 小説の読みについて。とくに内面描写や語りの問題		

## 研究内容: 大正末期～昭和初期の横光利一作品について

横光利一(1898-1947)は大正時代の末に、川端康成や中河与一らとともに「新感覚派」と称され、その旗手として活躍した作家とされています。

大正末期は、実生活に基づいた心境や深い懊悩といったものが重視され、それを記述することがよしとされる風潮がありました。しかしその一方、当然ながらそれに食傷気味な作家たちも混在するという状況でした。「生活」や「実感」を基調とする既成の文壇に対して、それまでには見られない表現技法や着想を、横光利一がいかに描いていったかを作品を通して考察しています。

たとえば、関東大震災後におこる新しい街、文化(映画、モダンガール・モダンボーイ)、思想(ダダイズム)、前衛芸術等を前にしながら、横光作品では、登場人物の「まなざし」が強調される表現が多くなされます。時代に翻弄されながらさまざまな考えを巡らせる登場人物が、何かを見ること、見られること、見たことについて当事者が語ること、語り手が登場人物の内面を語ること等、その効果について検証しています。それは、何をどう見る/見られる、語る/語られるかという興味関心によるところが大きいのですが、現代のわれわれにも通じる問題なのではないかと思っています。

また、横光は古典作品やなにかしらの典拠をもとに、翻案や新しいものを見出すということも行っており、その研究にも力を入れています。

担当科目	国語Ⅱ・日本語表現法
過去の実績	
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人形の形象と語り：横光利一「名月」から」 横光利一研究(17) 135 - 148 2019年3月</li> <li>・「横光利一「負けた勝者」の材源と構成」 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要(41) 11 - 22 2016年3月</li> <li>・「倉敷市蔵薄田泣菫文庫 満谷国四郎書簡 翻刻・解説(続)」 羽原 卓也, 西山 康一, 山本 秀樹 岡大國文論稿(43) 18 - 32 2015年3月</li> <li>・「対峙する横光利一「春は馬車に乗って」」 国語と国文学 91(12) 48 - 64 2014年12月</li> <li>・「倉敷市蔵薄田泣菫文庫 満谷国四郎書簡 翻刻・解説」 羽原 卓也, 西山 康一, 山本 秀樹 岡大國文論稿(42) 39 - 54 2014年3月</li> </ul>